

◆イベント

講義「公務員論」@龍谷大学（R6/11/1）

「これってめっちゃ京都だと感じたエピソードは（モノ、コト、ヒト、場所など）？」

1. モノ、コト、ヒト、場所が織りなす京都の魅力が「静けさ」と「深さ」を感じさせてくれること
2. 現代の建物が並んでいる中で、突然寺社仏閣が現れること
3. 本音と建前を使い分けるところ
4. 創業300年、1000年等店舗の歴史が非常に長い。
5. 住所が長いところ
6. 京都の観光地やお店が期間限定という季節ごとのモチーフを大事にされているところ（紅葉や旬のものを使い、季節の移り変わりを大切にし、その変化を楽しまれているように感じた。）
7. 難読地名が多いところ
8. 抹茶味の飲み物やスイーツが溢れているところ
9. 京都市民とそれ以外の人で言葉のニュアンスがうまく伝わらないところ（「京都の北のほう」という表現が市民は、市内の北のほうという意味で捉えていたが、他の人たちは舞鶴等の京都府の北のほうと解釈していた。）
10. 個人商店が多い。
11. 有名チェーン店よりもまちの小さなお店が大事にされているところ
12. 都市部と農村部のギャップを感じられること
13. 夏のじめっとした重たい暑さと冬の底冷えする寒さ（寒暖差が激しい。）
14. 和菓子屋さんが多い。
15. アニメや漫画で京都が舞台となっており、その場所を実際に訪れた時

16. 「おおきに」という単語をよく耳にし、子どもが親に尋ねていた時
17. タクシーの運転手の京都に関する知識が豊富、観光客へのおもてなしがすごい。クイズを出してくれたことも。
18. 「～しはる」等独特の柔らかさや丁寧さを言葉に感じた時（普段何気なく使われている言葉が新鮮）
19. 「～しはる、してはる」「～してんねん」等関西弁と京ことばが混ざっている人が多い。
20. 通り名をある程度記憶すると、道が分かりやすい。
21. 碁盤の目になっている。
22. 観光客だけでなく、地元の人たちの移動手段の中心がバスであること
23. 濃霧による視界不良で電車が止まる
24. バスが満員で乗りづらい。
25. 留学生を多く見掛けた時
26. まちを歩いていると、英語や韓国語だけでなく、自分の知らない&聞いたことのない外国語が聞こえてきた時
27. 大きなキャリーケースを抱えてバスや電車に乗車する観光客を見掛けた時
28. 外国人観光客、国内観光客が非常に多く歩く場所がない。
29. 水質（富山県と比較すると、京都の水道水は独特のにおいがする。）
30. 大学が非常に多い。
31. 鴨川に等間隔に座る暗黙のルール
32. 鴨チルをしている人たちを見掛けた時
33. 鴨川の川沿いにカップルが等間隔で並んでいる
34. 看板の表記が多言語であるところ

35. 伏見稲荷大社の頂上から京都のまち全体を見た時（大阪と比較し、建物の高さ制限や自然の豊かさを感じた。）
36. 繁華街と住宅街のコントラストがとてもはっきりしているところ（京都駅や河原町は都会に感じるが、少し外れると落ち着いた住宅街があり、山が見える等自然を感じることもできる。）
37. 景観条例を知った時（大阪と比較して建物の低さやまち並みの落ち着きに驚いたとともに納得した。）
38. うなぎの寝床が多い。
39. 新幹線で京都駅に着く際に、東寺の五重塔を目にした時
40. まちを歩いていた時に目にした石畳や町家が並んでいる様子
41. 町家を改装したカフェや居酒屋が豊富
42. 高い建物が少なく、昔ながらの景観が残されている。
43. コンビニエンスストア等建物の外観が景観を考慮している。
44. 先斗町のザ京都を表現している歴史的建造物が軒を連ねる様子
45. 南座の歴史的建造物らしい荘厳さ
46. 鴨川沿いを歩いている時に感じる風や、川床のあるお店を見ながら歩いていると風情を感じた時
47. 山に囲まれている。
48. 鴨川の美しさ
49. 小学校や中学校で茶道を体験する授業があったこと
50. 京都の人々が作り上げてきた文化や習慣が「思いやり」という観点から生まれたのだと感じた時
例：「ぶぶ漬けでもどうぞ」は相手を傷つけないという相手への配慮を含んでいるのでは？
51. 祇園祭の存在、7月のまちの賑やかさ

52. 言いたいことは直接言わない。

53. 着物が身近であり、日常生活でもよく目にする事

54. 祇園で舞妓さんを目にした時

55. 地藏盆があること

56. 区民運動会の存在

57. 嵐山の甘味処で、地元の人をあたたかさを感じた時